

コラム① 藍栽培の歴史を伝える

明治時代、現在の篠路地区を中心とする一帯では、産業として藍の栽培が盛んに行われていました。北区役所では、この歴史をまちづくりに活かすために様々な取り組みをしています。

今回はその中から、小学校で行っている「藍栽培の歴史について学ぶ授業」を紹介します。

<藍栽培の歴史を伝える授業>

この授業は、生徒たちに地域の歴史を学び、愛着を持ってもらうことを目的として毎年行っています。平成28年度は、鴻城小学校と篠路西小学校で授業を行いました。

授業ではまず、地域の発展に尽くした先人たちの働きについて講義を行い、その後、地域で実際に藍染を行っている団体の方々にご協力をいただき、ハンカチの藍染体験を行いました。



歴史の講義（篠路西小学校）



藍染の様子（鴻城小学校）

<北区における藍の歴史>

明治時代、徳島県から入植した人々が、困難を極めながらも土地を開墾し、徳島県の特産物である藍の栽培・染料への加工に成功、やがてその品質は日本一と認められます。のちに価格の安い化学染料に押され衰退しますが、その歴史は「あいの里」という地名や「英藍高校」の名前などとなって現在に残っています。



完成した藍染のハンカチ（鴻城小学校）

【お問い合わせ】 北区市民部地域振興課 TEL.757-2407